

職人の技と産業



“渋”の気品を絹に宿す

名古屋友禪

尾張藩主徳川宗春の頃(1730~39)は華やかな尾張文化で、京都、江戸などから各種の職人が往来し、友禪の技法もその頃伝えられたと言われています。宗春の失脚後は元来の質素な気風に戻り、名古屋友禪は色数を抑えた単彩濃淡が特徴となりました。経済産業省指定の伝統的工芸品です。友禪は分業制ですが、西区の工房では全ての工程を行い、最後の工程である染色補正(色の直しやしみ抜き)も行っています。

体験 友禪工房 堀部
名古屋西区万代町1-28 ☎052-531-9875(要事前予約)
URL <http://www.horibekoubou.com/>



熟練の技が
手元に広がる

名古屋扇子

名古屋扇子は宝暦年間(1751~64)に京都から現在の西区幅下付近に移り住んだ井上勘造父子によって始められたとされています。その後、扇の両面に渋をひいた「名古屋扇子」がつけられました。名古屋は京都と並ぶ屈指の扇子産地で、全国シェアの約3割を占めています。

体験 末廣堂
名古屋西区新道1-20-14 ☎052-562-2267(要事前予約)
URL <http://suehirodo-sensu.co.jp/>



揚げてよし、飾ってよしの
粋な万能凧

和凧

江戸時代から脈々と受け継がれた職人技で名古屋は和凧の一大生産地です。受け継いできた伝統技法を用い、美しさと丈夫さ、揚力に優れた和凧はインテリアとしても人気があります。名古屋の特産は扇凧です。

体験 凧本店
名古屋西区押切二丁目2-10 ☎052-522-5261(要事前予約)
URL <http://www.tacomo.com/>



伝統という灯を絶やすことなく
今に伝える

名古屋提灯

室町時代にさかのぼる提灯づくりは、江戸時代には盆供養に提灯を使う風習が生まれ、盛んに作られるようになりました。名古屋提灯も歴史の古い業者が多く、和紙を通しての柔らかな光が欧米人にも好まれ、明治初期には貴重な輸出品として全国一の生産を誇りました。



体験 雅創作工房
名古屋西区上名古屋1-11-5 ☎052-528-5360(要事前予約)
URL <http://382.co.jp/>



素材の特徴を
最大限に生かす職人技

製靴・革工芸品

名古屋の革靴づくりは昭和30~50年代に非常に盛んとなり、上質な本革の靴づくりが特徴です。また、靴以外の革工芸品の製作技術も受け継がれています。

体験 靴デザイン・クラフトスクール
名古屋西区栄生1-3-10 ☎052-581-2728(要事前予約)
URL <http://shoecraftschool.jp/>



体験 革工房うえすと
名古屋西区菊井1-21-17 ☎052-563-5212(要事前予約)
URL <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~bwest/>



思い出と癒しと笑顔を
届け続けて

菓子製造・菓子問屋

明道町や新道周辺には菓子製造業者や菓子問屋が集積しています。端緒は、名古屋城築城の石運び人、西枇杷島市場に集まる八百屋、美濃路の休憩所で旅人や人足衆を相手に駄菓子を販売した、など諸説あります。関東大震災後、名古屋の駄菓子は全国区となり、昭和30年代には全国の3割を占めるほどになりました。また、玩具つきのお菓子も名古屋が発祥と言われています。

区内には、県内の優れたものづくり企業「愛知ブランド」認定の菓子メーカーもあります。



名古屋から生まれた
和洋折衷の調べ

大正琴

その名のとおり大正元年に名古屋で生まれた楽器です。二絃琴をベースに、タイプライターのキーボタンを音階ボタンとして組み合わせることにより、弦を指で押さえる代わりに、音階ボタンを押さえて弾くのが特徴です。



体験 ナルダン楽器
名古屋西区幅下1-9-15 ☎052-571-8882(要事前予約)
URL <http://www.nardan.co.jp/>



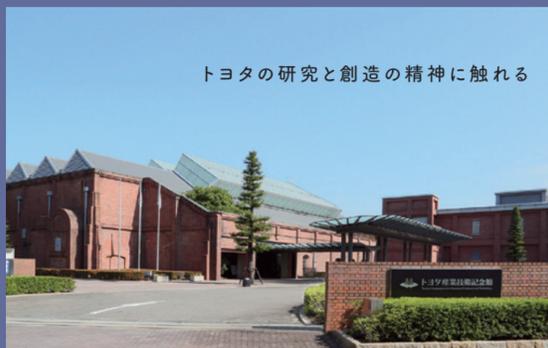
間近で見る職人技
つくる楽しさを感じる時間

ものづくり文化の館

「ものづくり文化の道」の魅力をより身近に感じていただくため、伝統工芸やレザークラフトなどの体験・実演イベント「ものづくり文化の館」をエリア内を中心に年3回ほど開催しています。詳しくは「ものづくり文化の道」ホームページにて。



拠点となる産業観光施設



トヨタの研究と創造の精神に触れる

トヨタ産業技術記念館

ここは1911年に豊田佐吉が自動織機開発のための試験工場「豊田自動織布工場」を開設し、その後、旧豊田紡織本社工場となった場所です。(株)豊田自動織機製作所やトヨタ自動車工業(株)の設立総会が開催されるなど、トヨタグループ発祥の地でもあります。大正時代の赤レンガの工場建屋を保存・活用し、1994年に織維機械と自動車の産業と技術の変遷を示す産業技術記念館が設立されました。

記念館建物や織機等の所蔵物は、経済産業省の近代化産業遺産に認定されています。



1 エントランスにある環状織機(デモンストレーションあり) 2 自動車のしくみや生産技術を示した自動車館 3 大正時代に建てられた紡織工場、建屋をそのまま使用した織維機械館 4 パートナーロボットによる演奏

トヨタ産業技術記念館
名古屋西区則武新町4-1-35 ☎052-551-6115
開館時間/9:30~17:00(入場受付16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
URL <http://www.tcmiit.org/>



文化と出会い、森に憩う。



ノリタケの森

1904年、日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニーリミテド)が、この地に洋食器工場を建設。数々の苦難を乗り越え、1914年に日本で初めて白色硬質磁器のディナーセットの製造に成功しました。その後、高圧碍子や衛生陶器の研究を開始、日本ガイシとTOTOの誕生につながりました。まさにこの地は近代陶業発祥の地といえます。ノリタケが創立100周年を記念して、2001年に本社敷地内に整備したのが「ノリタケの森」です。広大な敷地には、四季折々の樹木が植えられ、訪れた人々は豊かな緑に囲まれて憩いの時間を過ごしています。

旧工場跡6本煙突や旧製土工場等は、経済産業大臣認定の近代化産業遺産。



1 クラフトセンターでは、職人による絵付けをはじめとする陶磁器の製造工程の見学が可能 2 旧工場跡6本煙突 3 絵付け体験コーナー 4 ミュージウムでは歴史的・文化的価値の高い「オールドノリタケ」をご覧いただけます

体験 ノリタケの森(クラフトセンター・ノリタケミュージウム)
名古屋西区則武新町3-1-36
開館時間/10:00~17:00 ☎052-561-7114
休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
URL <https://www.noritake.co.jp/mori/>



物語のある商店街や街並み



賑わいと生活の密なる空間

円頓寺商店街界隈

名古屋の城下町形成とともにできた街であり、随所にその面影を残しています。商店街に名づけられた圓頓寺をはじめ、慶栄寺、専修寺などの仏閣や「清須越し」で名を移した五条橋、四間道と土蔵群、旧商家や屋根神さま、守子地藏尊など、歴史資源が今なお存在します。

また、歴史ある商店街では下町情緒を感じながらお買い物や食べ歩きを楽しめるほか、七夕まつりをはじめ、さまざまなイベントが開催されています。



生活の知恵が生んだ
“まちかど文化財”

屋根神さま

その名のとおり屋根にまつられている神さまのことです。地域の守り神として町内や隣組などの小組織で守られており、もともと神さまをまつる地所がなかったことから屋根の上や軒下にまつったのがその始まりと言われています。名古屋市内の半数が西区にあります。



歴史と都心のコントラスト

蔵が並ぶ四間道

「清須越し」によってつくられた商人町で、1700年の大火の後、町中の延焼を避けるため道幅を四間(約7m)に拡幅したことからその名がついたとも言われています。堀川の水運を利用して米穀、塩、味噌、酒、薪炭などを城下町へ供給する、清須越商家が美濃路側に軒を並べて繁栄しました。その商家の蔵が建ち並んだ四間道は、東側の石垣の上に土蔵群、西側には町家群からなる珍しい町並みを、今なお見ることができます。名古屋市町並み保存地区。



時代を越え、
人々が行き交った道

歴史街道 美濃路

美濃路は東海道宮宿(熱田区)と中山道垂井宿(岐阜県垂井町)をつないだ街道です。宮宿と桑名宿の間が海路で天候に左右される東海道より、陸路である美濃路がよく利用されました。1610年、家康により尾張の首府が清須から名古屋へ移され、清須越しといわれました。短期間に大規模な都市移転が行われ、各地から様々な職人や商人が集まり、多くは西区の美濃路沿いに店を並べ、ものづくりの気風が育ちました。堀川沿いには今も清須越商家の町並みが残され、四間道と一体となり名古屋市町並み保存地区を形成しています。